

*



かどや通信

第43号

発行日：令和3年3月吉日
発行：かどや保存会
発行責任者：寺田 直喜／編集：廣野 克子

三密避けて 人気の味噌造り

第七十七回かどや塾「マイ味噌を作る」が、二月二十四日に開催された。紀北町の老舗・河村「うじ屋」さんの味噌造りは今回で四回目となるが、毎回好評のため九時から十時半からの一回に分けて実施してきた。今回は、新型コロナウイルスを考慮して中止も検討したが、「自分で作る味噌は格別」と、味噌造りファンが増えているので、「コロナ対策を万全にして実施することになった。」



ソーシャルディスタンスもたっぶり



昨年の味噌造り風景

蒸してきてくれた大豆を「ぶす」ところから始めるのだが、今回は大豆をすりつぶすところまで、「うじ屋」さんに準備していただいた。

かどやでは、麴のかたまりをほぐすことから始め、ほぐした麴に塩と大豆を混ぜ、「ぶし」大の味噌玉を作り、それを味噌樽に投げつけて空気が入らないように詰める作業を行った。時間は短かったが、かなり力のある作業なので「私が作った味噌」という達成感は従来通りだった。今後約半年かけて熟成させるが、参加者は「マイ味噌の出来るのが待ち遠しい」と、嬉しそうだった。

コロナ禍での味噌造り事情

河村「うじ屋」さんは添加物のない味噌造りが人気で、毎年教室の予約を取るのも大変だった。しかし、「コロナの影響で、昨年三月以降は予約取り消しが相次いだそうだ。ところが今年には「コロナ禍でも味噌造り教室の需要は増えているという。」

「うじ屋」で、ステイホームの定着により自宅で麴を使いたいという需要も急増しており、河村「うじ屋」さんは多忙を極めているそうだ。

縁の下の仲間たち⑩ 驚異の回復力!

『かどや通信』配布中につまずいて膝の皿を割って入院しました。二日後に手術です。かどやスタッフの要であるユージさんから昨年十二月一日、衝撃のラインメッセージが届いた。

かどやでは経費節減のため、かどや保存会会員への配布物を近場はユージさんが自力で配達している。その日も郵便物をかかえて小走りで配達していたところ、なんと五センチほどの段差につまずいて入院し、我らスタッフは年末を控えて途方に暮れた。

しかし、常に前向きなユージさんは手術を終えると、翌日から辛いリハビリも積極的になさし、驚異の回復力で年末には退院。その後は通院しながら自宅療養し一月中旬には何事もなかったかのように軽やかな足取りで職場復帰を果たした。

一月は『かどや通信』発行月のため本来ならユージさんが原稿締切までの予定表を張り出して「締切遅れるべからず」とプレッシャーをかけてくる。「さて今回は」と思っていると、復帰前にもかかわらず原稿締切の予定表を届けてくれた。冷や汗タラリだったが、そんな気配りのお蔭で『かどや通信』も遅滞なく発行できたのである。

蘇った金胎寺の秘宝公開 在りし日の面影を共有

「金胎寺の秘宝」と題した企画展が、三月六日から十四日まで行われ、本尊の十一面千手観音菩薩立像をはじめ、貴重な仏像など約五十点が展示された。

江戸時代には鳥羽城主の祈願寺として尊重されていた金胎寺は、平成七年（1995年）に原因不明の火災で本堂が焼け落ち、ご本尊をはじめ多くの仏像は焼失したとの思われていた。焼失を免れた庫裏も屋根に穴が開くなど荒れ果てていたため、二年前に当寺の住職となった長谷さんと鳥羽郷土史会会員の江崎さんが、昨年末に整理を始めたところ炭化したご本尊や仏像など約一百点が見つかった。そのうち多くの方々に在りし日の姿をしのびたい



炭化した十一面千手観音菩薩立像

薬師如来坐像



「ご本尊は、室町時代に作られた二メートルを超える大きさだった。大部分は焼失し、かろうじて残った炭化した頭部や手足等が再現して展示された。平安時代の作とされる薬師如来坐像も損傷が激しく全身が焼けこげているが、鳥羽市内に残る仏像として最古のものという。元々は伊勢市の潮満寺のご本尊だったが、潮満寺が安政東海地震（1854年）による津波で流失したため、残った仏像が同じ宗派の金胎寺に移されたといわれている。この他、一年前に発見された江戸時代の雨宝童子や二宝荒神、大黒天像をはじめ、焼失前の本堂やご本尊の写真等も展示された。

炭化した仏像は痛々しいが、木造のどっしりとした風格は残っており、仏像を前に手を合わせる人も多かった。



左端が雨宝童子

江崎さんは「保存方法等については今後の課題ですが、在りし日の金胎寺やご本尊の面影を多くの方々に知っていただく機会を得られて、よかったです」と話してくれた。

二つの驚き

①金胎寺は檀家を持たない祈禱寺だったため、住職不在の時期もあったが、そんな時でも地元鳥羽三丁目、旧・中之郷の奉賛会の方々が大切に守り続けてきた。今回も仏像の搬入・搬出には奉賛会の方々が活躍しており、地元の人たちの同寺への暖かな思いが伝わってきた。

②これまで、かどやの展示の見学者は中高年の女性を中心だったが、今回は男性が圧倒的に多いのに驚いた。展示初日が一番乗りは、愛知県と兵庫県から駆け付けた男性二人だった。連日、地味なモニターの服装の人たちで展示会場が埋め尽くされたのは、かどやが始まって以来だった。

＜和菓子の魅力を熱く語る！＞

「今昔和菓子事情」と題したかどや塾が三月十四日に開催され、和菓子職人の奥田泰平さんが、和菓子への思いなどを熱く語ってくれた。奥田さんは、明治五年から昭和四十八

年まで和菓子の名店として名を売った「對馬屋重則」（松阪市の子孫である。同店は残念ながら廃業してしまっただが、大学卒業後、和菓子の魅力に目覚め、現在菓子職人として修業を積んでいる。

かどや塾では、まず奥田さんの祖父・奥田重夫さんが三重県菓子工業組合理事長を務めていた昭和三十七年に実施された「伊勢神宮献菓子」を記録した映像を上映。その後、對馬屋の歴史や祖父の功績等を紹介した。さらに、同家に残る貴重な菓子の木型や焼印をはじめ、和菓子の魅力に取りつかれて収集した絵図帳等も惜しみなく披露した。

講演の後半には、奥田さんが春に因んで作った薯蕷饅頭と、五十鈴川と桜をイメージした羊羹が抹茶とともに配られた。いずれも上品でもっちりとした味わいで、参加者の舌を魅了した。



恒例のかどやの雛飾り 吊るし飾りで華やかに

二月は毎年恒例の「かどやのひな祭り」が開催され、明治期に作られ、廣野家特製の御殿雛と、かどやに寄贈された江戸期の雛飾り二組、昭和初期の御殿雛が例年通り飾られた。

江戸期のものは、当時伊勢豊浜の土路地区の農家が船で運んでくる野菜を鳥羽で販売していた土路屋の子孫から寄贈されたものだ。江戸時代は雛人形一組で家が一軒買えるほど高価なものだったそうで、土路屋さんの繁盛ぶりがしのばれる。昭和の御殿雛も酒蒸し饅頭が有名だった和菓子店・武蔵屋が所有していた立派なものだ。

四組の雛人形は、どれも面長な公家風のうりざね顔が特徴で、丸顔で目がパッチリした現代風のものとは一線を画している。見学に来られたお客様は、歴史を感じさせる人形たちに見入っていた。

〈手芸倶楽部の成果も発表〉

また、雛人形にちなんで手芸倶楽部の生徒さんたちの吊るし飾りと、同教室を率いるヨシエちゃん作品も同時に展示された。

ヨシエちゃんは平成三十年二月にそれまでに作りためていた吊るし飾り約百六十点をかどやで展示し、大評判となった。「私も作ってみたい」というリクエストに添えて、同年三月から手芸倶楽部を開講し、吊るし飾り用の鶴や亀等の縁起物を毎月一個ずつ作ってきた。今回は生徒さんたちが二年越しで完成させた作品を披露した。ヨシエちゃん作品は、ウサギやネコ等をモチーフにした小さなお雛様をはじめ、四季折々の吊るし飾り等、約百四十点を展示した。明るく楽しい作品が部屋を埋め尽くしており、見学者からは「心が和む」と好評だった。



を毎月一個ずつ作ってきた。今回は生徒さんたちが二年越しで完成させた作品を披露した。ヨシエちゃん作品は、ウサギやネコ等をモチーフにした小さなお雛様をはじめ、四季折々の吊るし飾り等、約百四十点を展示した。明るく楽しい作品が部屋を埋め尽くしており、見学者からは「心が和む」と好評だった。

〈ひな人形ミニ知識〉

かどやの雛飾りは、京都御所の紫宸殿を模した御殿の中に、男雛と女雛が飾られている。ここで注目したいのはその並び方だ。近年のものは男雛が向かって左に飾られているが、御殿の中の男雛は向かって右に位置している。これは京雛と呼ばれる飾り方で、理由は諸説あるが、日

かどやの御殿雛



本古来の風習では、日が昇る方向が上座とされ、京都御所を北に見て殿が向かって右に座って

おられたからと言われている。一方、全国的に男雛が向かって左に飾られるようになったのは、明治時代に西洋化が進み、大正天皇の即位の礼で、天皇が向かって左に立たれたことから広まったとされている。(出典：婦人画報)。

〈スタッフ総出の恒例行事〉

恒例行事とはいえ、毎年お雛様の出し入れは大仕事だ。一年前にしたことなのに、人形の配置が思い出せない。御殿の組み立て方も記憶に霞がかかった状態だ。

それでも、スタッフ総出で記憶をたどり、知恵を絞って、今年も歴史的な雛飾りを令和に蘇らせた。



縁の下の仲間たち⑩

セミナーの舞台裏

前ページで紹介した和菓子セミナーは成功裏に終了したが、実は開始前に一波乱あった。パソコンとプロジェクターをつなぐ端子の形状が合わず、奥田さんが持参したDVDの映像が映らなかったのだ。早速、パソコンに強いノリさんに電話すると「今日は会社に出勤してまして」。

さあ、どうしよう。近所には映像作家のハジメちゃんがいるが、今月開店したおにぎりカフェのオーナーで、十一半過ぎといえ、ランチの仕込みで忙しい。一瞬躊躇はしたものの、頼れるのはハジメちゃんしかない。店に行く、予約の準備で手が離せないと言いつつも、必要な端子を探して貸してくれた。早速かどやに戻ると、端子は繋がったものの、なぜか映像が映らない。またまた途方に暮れたが、この日は謎解きミステリーで館内にはパソコンに強そうな若者がいた。かどや関係者が窮状を訴えると、カシヤカシヤとプロジェクターを操作し、見事映像が映しだされて、本番を迎えた。このセミナーでは絶品の和菓子を食べていただいたが、それを引き立てる抹茶はまゆみ塾でお馴染みのまゆみさんが参加者分を一人で点ててくれた。抹茶の銘柄もお菓子を引き立てるものを選ぶ心遣いがあった。舞台裏では、行きずりの人も含め多くの人が支えてくれていた。

かどや周辺グルメ情報

かつて鳥羽三丁目から四丁目界隈は、八百屋、魚屋、肉屋、酒屋、豆腐屋、本屋、駄菓子屋、食堂、風呂屋、たばこ屋、傘屋等が軒を並べ、人が行き交う町だった。当時の賑わいを少しでも取り戻そうと、現在も営業を続けている商店などが中心になり平成二十五年に鳥羽なかまち会が結成された。同会の地道な活動によって、かどや周辺(徒歩五分圏内)にグルメな店が誕生している。

「花清水」三年前に出店したちゃんぽんと炙り鯖寿司の名店。地元はもちろん、観光客の舌も虜にしている。「わらわい屋」昨年十一月に開店。惜しまれつつ閉店した富士乃屋の流れをくむ味噌味ベースの焼きそばとたこ焼き、タコせんべい、焼き芋等、昭和の香り漂う店だ。店主のアケミさんの明るさも魅力！



おにぎりランチセット ¥690
おにぎりランチ、ドリンクお菓子セット ¥1080

「おにぎり」今年三月三日にオープンしたおにぎりカフェ。ランチセットはメインの肉か魚におにぎりとスープ、サラダがついてくる。シエフは元パティシエ

エなのでコーヒーとスイーツも楽しめる。オーナーで料理上手なハジメちゃんは、昨年六月に地域おこし協力隊を卒業し、映像作家として活動する傍ら、シエフの右腕としても活躍している。

コロナ禍での活動状況

苦渋の決断…鳥羽の春祭り(四月三日&四日)に合わせて、「和の市みえ」の開催を予定していた。当イベントは、かどやで一閑張り教室の講師を務めるヤヨイさんが推進しており、三重県内で展開している和雑貨等「和」の商品が中心のマルシェだ。かどやでは約十店舗が出展予定で、コンサートも予定されていた。楽しいイベントになること請け合いだったが、コロナ禍で春祭りが中止となり、鳥羽市内でもクラスタが発生したため、やむなく中止を決定した。コロナが収束したら、実施するので、乞うご期待！

再日程決まる！…かどや塾「金継ぎの世界」

二月二十一日も申込が二十名を超えたため延期となったが、密を避けて五月九日(日)と十日(月)に分散して実施することになった。大型の空気清浄機も購入したので、ご参加を。

貸部屋の案内

かどやを有効にご活用いただくため、一部の部屋を貸部屋として貸し出しています。茶話会や勉強会、展示会などにご活用ください。詳細は、かどやへ。

電話〇五九九―二五八六八六

時間区分 部屋	午前	午後	全日	冷暖房設備 利用料
	10時～12時	13時～16時	10時～16時	
座敷南(10畳)	500円	600円	1,100円	500円
座敷北(8畳)	400円	500円	900円	—
仏間(6畳)	300円	400円	700円	—

- ・営利目的の場合は、料金表の10割増しとなります。
- ・鳥羽市民または市内勤務者以外の利用は、料金表の5割増しとなります。
- ・許可された利用時間を超過する場合は、割増料金が発生します。
- ・冷暖房費は、全日使用の場合は2倍になります。

かどや保存会 令和3年度会員募集開始！

かどや保存会は、歴史的文化財である「鳥羽大庄屋かどや」の保存ならびに効果的な活用・運営をめざして活動を続けており、当会を支援してくださる会員を募集しています。

令和2年度の会員数は令和3年3月20日時点で285名と、前年度よりさらに26名減少しました。しかし、コロナ禍にも関わらずご支援いただいた皆様、誠にありがとうございます。コロナの収束にはまだ時間がかかるものと思われませんが、対策を強化しつつ、皆様の憩いの場所となるよう、これからも日々努力を重ねてまいります。令和3年度も、引き続きご支援いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和3年度(令和3年4月1日～令和4年3月31日)の年会費(1口2,000円)は、継続・新規を問わず、以下の方法で納入してください。

- (1)手渡し：かどやにお越しいただき、直接事務局にお支払いいただく。
- (2)銀行振込：郵便局 普通 かどや保存会 00850-4-151751